

## 臨時理事会議事録

日時：平成19年12月22日（土）18時30分～20時

場所：小田原市生涯学習センター“けやき”大会議室

出席者：小田原テニス協会加盟団体理事、協会常任理事

今年の理事会で承認されたリーグ戦検討委員会が一年間かけて検討してきたリーグ戦の在り方について改訂案を説明報告し、質疑を行った。

（まとめ）

臨時理事会では内容説明と加盟団体理事からの質疑と応答を行い、改定案のご理解をお願いした。

これを団体に持ち帰って検討いただき、来年1月26日（土）に開催される理事会で最終決定を行う。

（内容）

### 1．改定案（添付別紙）の説明要旨

リーグ戦に問題が種々出てきている。その解決策として、リーグ戦編成を各ブロック5チームとする（試合数の減少とホーム・アウェイ分担の明確化）コートフィーはホームチームがコート代を負担する、営業クラブ（ホーム）コート使用時は協会が1万円を負担する。協会繰入金が増えるが様子を見ていく。

### 2．質疑応答

#### ・改定案に対する質疑

年間の試合数が減少するのは楽しみが1回減りこまる、試合消化が難しくなっている原因をつかんでいるか。

（答）ガーデンの使用が増加しており、特に週末の確保がむずかしくなっている。

天候が不順だった昨年は没収試合が発生してしまった。

協会行事日（大会やテニス講習会など）にリーグ戦を行っているが、これは問題で協会行事に協力し参加して欲しい。

コート事情とコート代負担の明確化でこの解決策としてブロック編成数を5チームとすることで対処したい。

協会での公営コート確保を増やすことはどうか。

（答）西湘体育センターの利用を増やすこととか手は打っている。南足柄運動公園の使用も働きかけをしているが現状はまだ確保に至っていない。

コート数確保の為にチーム編成以外の検討は行われたのか。

（答）資料にも記載してあるが、ポイント数の変更、試合方法を8ゲームにするとかを検討したが、一日の日程の中での削減効果を発揮しにくいとか、3セットマッチを望む声が大きく、今回の編成を結論としている。

この改訂案の来年実施は必須なのか、変更方法が提示されていないまま来年すぐ実施はおかしい。

（答）来年には諸問題を解決する目的で昨年末の臨時理事会でリーグ戦検討委員会の設置を提案した。今年の理事会に諮ってリーグ戦検討委員を公募した。しかし応募は一人だったので、不足の委員は参加団体のバランスをとって委員会を発足させた。委員会で十分時間をかけて議論し検討してきた。チーム数の変更も変更案のひとつとしてすでに理事会で提案をしてきている。

いずれやることになるので、来年からの実施を予定している。

リーグ戦での昇格を目標としてきたチームが昇格出来ず期待に背くことになる。

（答）1部、2部、-、-、-、というのは相対的な尺度で、リーグ戦順位を並べた状態では、そのチームが全体の中のどこにいるかの位置付け（全体順位）は明確になっている。尺度を少し変えて考えてほしい。いつ編成の変更を行ってもこうしたことは発生する。

6チームのブロックで上位3チームがホームになり固定化してしまう、平等になるようにしてほしい。

（答）6チーム編成は最下部で、チーム数も変動していくのでそれほど固定化するとは考えていない。しかし固定化の可能性もあるので、チーム順位でブロック構成する際に検討していく。

コートフィーは全負担でなく折半でもいいのではないか。

（答）折半の場合たまたま相手が営業クラブでホームの時は高いコート代を支払わなければならない。

また相手が営業コートを使用したいがアウェイチームがいやと言えない場合も高いコート代を支払

わなければならない。

努力のしようのない部分で差が出ることは問題であり、ホームチームがコートを確保して費用も全額負担することが公平であるとする。

・その他

メンバーの少ない団体にとって協会加盟費とリーグ戦参加費をあわせると金銭的負担が大きい、メンバー数によって変えるとかに出来ないか。

(答) 加盟団体の人数も増減があり変動するのでそれに対応してその都度変更というのは困難である。

また大きな団体はリーグ戦に出ているチーム数も多くそれなりの負担になっており、少ないチームは少ない支払いで、現状を妥当だと考える。

以上